



学校だより

志高く

正しい判断力とたくましい実践力を
もった熊谷東中生を育む学校

発行 熊谷市立熊谷東中学校
電話 048(521)0066
FAX 048(521)8429
令和6年6月11日
第5号

成田助高・助広という人物



平治の乱のようす「平治物語絵巻」教科書 p66 から

校長 清水利浩

平安時代の中頃、10世紀頃から武士が成長し始めました。特に地方の武士は、一族や家来を従えて、武士団をつくりました。これは、歴史の教科書(p64)の記述です。私たちが生活する熊谷の地域では、熊谷氏や久下氏などが武士団をつくり、勢力を広げました。(久下氏については、昨年度、

学校だより「志高く」の11月号と2月号で取り上げました。ぜひ、ホームページで確認してください)

こうした熊谷の武士の中で、最も勢力をもっていたのが、成田氏です。成田氏の館(やかた)は、成田星宮小学校とその東の泰蔵院というお寺の間にあり、ここに住み始めたのが、成田助高(すけたか)という人物です。そして、成田助高には4人の子どもがいました。

長男は、成田に住み、成田太郎助広(すけひろ)といいます。次男は、別府に住み、別府次郎行隆(ゆきたか)、三男は、奈良に住み、奈良三郎高長(たかなが)、四男は、玉井に住み、玉井四郎助実(すけざね)を名乗ります。今もある成田、別府、奈良、玉井という地名を名字として名乗りました。4人の兄弟は力を合わせて、熊谷市域で最大の武士として栄えたのです。

12世紀になり、都では2つの内乱「保元の乱」と「平治の乱」が起こります(教科書p66)。保元の乱は、天皇家の争いに、摂関家が加わり、源氏と平氏が参戦した内乱です。後白河天皇側には、平清盛と源義朝が味方し勝利しました。この保元の乱では、成田太郎助広を始め、別府、奈良、玉井の四兄弟は、武士団を率いて、源義朝軍に加わって戦いに参加していたと記録に残っています。その後の、平治の乱では、源義朝は、平清盛と敵対し、戦いに敗れています。この時、成田の四兄弟はどうだったのか記録には残されていませんが、おそらくふるさと熊谷にもどっていたのだらうといわれています。成田氏は、この後、行田市にある忍城に本拠地を移していきます。これは、またの機会で取り上げたいと思います。ぜひ、教科書で学ぶ歴史をもとに、ふるさと熊谷の歴史を調べてみましょう。

<参考文献>・教科書「新しい社会 歴史」東京書籍 ・「熊谷市史 前篇」昭和55年 ・「改訂版 熊谷の歴史を彩る 史跡・文化財・人物」平成30年 熊谷市立熊谷図書館 ・「私たちの郷土 新編 熊谷の歴史」2008年 熊谷市立熊谷図書館



3年生修学旅行特集



スローガン「古都で深める学びと友情 京都でつくる Memory 特盛」
～ じっくり古都古都 古都の趣 ～

1日目 6/2 (日)

① 出発式



② 法隆寺見学



③ 東大寺見学



④ 奈良公園



2日目 6/3 (月)

⑤ 班別行動



⑥ 建仁寺見学



3日目 6/4 (火)

⑦ クラス別行動

